

パブリック・サービス研究分科会

講義年月日 2009年11月9日 13時30分～15時15分

テーマ Improving student life, learning and support through
Collaboration, integration and innovation

講演者 加藤 好郎氏 (慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長)

Crit Stuart : 彼は、Georgia Institute of Technology の図書館・情報センターでパブリックサービス部門のアソシエイト・ディレクターでした。

キャンパスはアトランタの中心地にあり、400 エーカーの面積を占めている。そこでは18000 人の学部生、大学院生が工学を学んでおり、その大多数が工学を専攻している。学部生、大学院生の学位には建築、工学、化学、コンピューター、経営、一般教養がある。

一流大学は、学生や教授に優れた目的を持つことを要求する。大学院生や教授は、学部生よりも図書館の本やフルテキストのデータベース、その他の資料を使っているようだ。それらは研究や授業や教室での配布物のために用いられている。

レファレンスデスクには職員を配置するように大変な努力がされていたにも関わらず、あまり利用されていなかった。

卒業生や学部生は次の 2 つの内の 1 つの目的のために図書館に訪れた。大多数の学生と教授は、図書館が大学から離れていることと学問的成功に役に立たないことに不満があった。周辺に問題があったのは明らかだった。我々は学術図書館が、このギャップをうめる合理的な場所であると確信した。

図書館の West commons (=Information Commons) の計画

情報センター (O I T)

図書館長は図書館内に West commons を作るために、OIT と協力することを我々スタッフに要求した。West commons は図書館に入ってすぐのところにある。55 人の図書館員と OIT のスタッフが West commons を作ることを誓った。図書館は学生の勉強への要望に力を入れ始めた。

このプログラムの初期の段階また数カ月において、最も優先させたことは別組織のスタッフと一緒に仕事をするときには慎重に行うということだ。計画をうまく軌道に乗せるために、中心チームは次のことをした。各スタッフが問題点を見付け、計画を進めることに明確な自信を持つ時間を与えることで各スタッフの心配を解消した。

West Commons の生産的施設

施設に置かれている相談窓口には情報センターに居る学生スタッフが午前 8 時から深夜 12 時まで、ほぼ毎日担当している。施設は、開始した週から圧倒的な人気を得ている。

情報サービスの窓口は West Commons の端にある。情報サービスセンターには MatLab

や他の複雑なソフトウェアを備えており、講師が夜間週末に援助を受けられる 4 つのワークステーションがある。我々は、学生の生産サイクルに注意を払い、グループプレゼンテーションを練習するよい場所がキャンパスに無いことに気づいた。

West Commons のこの第二局面が驚異的な成功をおさめている。開設して、1 年後、特殊マルチメディアソフトウェアの短期コースが来館する学生に利益をもたらし、スタッフの時間節約に役立つことが分かった。Georgia Institute of Technology の図書館においてのこの最初のラーニング・コモンズは、来館者、図書館そして情報センターに大評判であった。情報サービススタッフはすぐに West Commons になじんだ。

心と体の回復の試み

West Commons は、各個人の生産性に関するニーズに焦点をあてた。図書館が 2003 年秋にスティールケース社の研究部門と協同で行った最初の調査、スティールケース社の言葉で言うと、学生の学業と生産性のダイナミクスへの”深い没頭”を行った。大学の財政はその翌年には改善した。

East Commons にとって重要なテーマは心と体の回復である。我々は East Commons 用に明白な計画的なコンテンツを持っていた。East Commons は West Commons から廊下を隔てた East tower1 階の約 8000 平方フィートを占めている。East Commons は新しい二つの場所に設置され、今の閲覧スタッフがいる場所に再設計されている。East Commons にいる学生の多くは、East Commons にある新しい居場所に魅了され、定住民のようになっている。

図書館と情報センター間の協働は回報を通して行われている。一般に、情報センターは Commons に関連する技術費を負担する。Commons の評価は、協働の努力の成果である。情報センターはソフトウェアの詳細な使用統計や、施設を使用した学生のタイプの詳細な統計を保持している。

学生の意見はいろいろな方法で聴取される。

図書館は過去 5 年間に 3 回 LibQual に参加しており、それにより学生や教授陣の物理的建物や内部のサービスに対する反応の比較追跡調査をすることができる。変化した図書館をみんな知っているようである。

大学は図書館の writing/communication センターとしての働きを認める（支持する）のがかなり遅かった。図書館内のどこかで、我々は数多くの学生や教授陣の行事のホスト役を務めた。Georgia Institute of Technology の図書館は 4 年ですっかり変化した。我々が従事した仕事は、我々の事業に有用なパートナーとのすばらしい交流を取り込むような図書館を思い描き、変化する試みである。

今日、ジョージア工業・技術図書館はキャンパスでいち早く主要な学習ができる場所、リビング・寝室のある建物や学生の目的達成の神聖な場所である教室や実験室にならぶ「三

番目の場所」なのである。学生は、他の目的では、図書館を使用しないであろう。